

## ② 夢を実現する教育

### 2040年に実現したい姿

#### 【「包み込まれているという感覚」が実感できる教育】

- ⑦ すべての子どもが「主体的に学び考える力」、「多様な人とつながる力」、「新たな価値を生み出す力」を身に付けることができるよう、周囲から「包み込まれているという感覚」を実感でき、安心して受けたい教育を受けられる環境が実現しています。

#### 【人権を基盤として次代の京都を支える人材が育成される教育】

- ⑩ 多様な子どもたち一人ひとりを大切に、誰一人取り残すことなく、人権を基盤として共に助け合い、高い志とグローバルな視野を持ち、次代の京都を支える人材が育成されています。

#### 【超スマート社会において新たな価値が創造できる教育】

- ⑩ 超スマート社会が到来し、ICTやAIが目覚ましい発展を遂げている現代社会において、情報活用能力を基盤として、多様な他者と協働しながら新たな価値を創造する能力をはぐくむ教育が実現しています。

#### 【京都の文化力を生かした教育】

- ⑩ 地域のつながりや伝統・芸術など京都の文化力を生かした豊かな感性をはぐくむ教育が実現し、郷土に誇りと愛情を持つ次代の地域づくりの担い手が育成されています。

### 4年間の対応方向・具体方策

#### 新時代の到来を見据えた新しい学びを創造します。

- 1 めまぐるしく変化する未来社会を生き抜く力をはぐくむため、実社会という生きた教材から答えのない問いに挑む「課題解決型学習」等の機会の充実に向けて、企業や大学等とともに構成する産学連携型学習「京都『結(ゆい)』コンソーシアム(仮称)」により官民一体の教育を進めます。

- 2 理科を中心とした専任教員の配置等により、新しい時代にふさわしい質の高い教育の実現を図るとともに、教科等横断的な「STEAM教育」を進めます。

- 3 児童生徒が自ら課題を発見し解決する能力の向上をめざした「課題解決型学習」を実施するなど、知識や技能などの認知能力だけでなく、意欲や粘り強さなどの非認知能力を一体的に育成します。

- 4 学習指導要領における「外国語教育の充実」等を踏まえ、小学校に配置する英語教育推進教員の拡充や、小学校から高等学校までを見通した一貫した英語教育により、「聞く」「読む」「話す」「書く」の英語4技能の強化を進めます。

- 5 学校のICT環境を整備し、ICTを活用した学習活動を充実させることにより、新しい学びの基盤としての情報活用能力の育成を図るとともに、オンラインによる双方向授業やコミュニケーション体制を整備し、非常時等においても、学びとつながりを保障します。また、ICTを活用した学力テストのデータ分析などにより、「主体的・対話的で深い学び」や「一人ひとりの能力や特性に応じた学び」を実現します。

- 6 児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導ができる新たな指導体制を整備し、小・中学校、高等学校での振り返り学習を充実させるなど、基礎・基本を徹底する取組を進めます。

**伝統文化学習など京都ならではの教育を進め、豊かな人間性と健やかな身体をはぐくみます。**

7 府立高校において、「京の文化継承・価値創造推進校」を指定し、地域文化のフィールドワークや着物の着付けなどの体験活動に加え、ユネスコ無形文化遺産に登録された和食について学ぶ授業、留学生との交流における宇治茶の呈茶、京野菜を使った新しいレシピの提案など、京都の本物の文化を次世代に継承し新たな価値を生み出す取組を進めます。

8 体験活動や地域活動、読書活動等を通じて、人を思いやり、尊重する心をはぐくみ、豊かな人間性を育成します。

9 児童生徒や教育を取り巻く状況の変化や、多様化・複雑化する社会に対応するため、人権学習や道徳教育について、より一層の充実に努めます。

10 ボランティア活動や奉仕活動などを通じて社会に貢献する心をはぐくむとともに、社会の一員として果たすべき役割と責任を自覚し、積極的に社会参画できる資質や能力を養うなど、成年年齢の引き下げ等も踏まえながら、より良い社会の構築に向けて行動できる人材を育成する主権者教育を進めます。

11 楽しく体を動かす習慣を身に付けさせながら、体力・運動能力の向上をめざすとともに、知育・徳育・体育の基礎となる食育をはじめ、健康的な生活習慣を確立できる取組を進めます。

**一人ひとりの能力や個性を伸ばし、新たな時代を豊かに生きる力の育成に向けた魅力ある学校づくりを進めます。**

12 府と市町村が一体となって「教育環境日本一」を進めるため、地域の実情に応じた教育施策や環境整備などを支援します。

13 高校生の海外留学への支援や留学生の受入れのほか、オンラインを活用した対面とバーチャルのハイブリッドによる英語研修を実施するなど、豊かな語学力やコミュニケーション能力、異文化理解の精神等を身に付けてグローバル社会で活躍できる人材を育成します。

14 児童生徒一人ひとりが自らの進路を主体的に切り拓き、自己実現につなげることができるよう、地域と連携して体験的な学習やライフデザインを考える学習を進めるなど、発達の段階に応じたキャリア教育を進めます。

15 高校生が学ぶ意欲と目的を持って進路を選択できるよう、大学教育の先取り履修や大学の施設・設備を使った実習等、大学と連携した学びの機会を充実します。

16 在籍校や地域を越えた生徒間交流によって、生徒の可能性を最大限伸ばすため、府立高校間でのICTを活用した遠隔授業や、短期的に留学できる仕組みの検討等により、学校間連携の強化に取り組みます。

17 地域創生や地域連携に重点的に取り組む「地域創生推進校」の充実や、職業系専門学科における企業連携の強化など、高い専門性と応用力を備えた地域のものづくり産業の担い手育成に取り組み、地域社会の発展に貢献できる人材を育成します。

18 「地域と共に歩む学校」を教育理念に掲げ令和4（2022）年4月に開校した井手やまぶき支援学校において、共生社会の担い手となることをめざした取組を進めます。また、向日が丘支援学校について、教育と福祉の総合的な連携による切れ目ない支援の充実をめざし、改築整備を進めます。

19 特別支援学校におけるICT環境を整備し、社会的自立や企業就労につながる情報活用能力を育成します。

20 少子化による高校の小規模化等の課題や府立高校の果たすべき役割を踏まえ、新しい時代に応じた探究的な学びや学習スタイルの構築、府立の強みであるスケールメリットを生かした学習環境の向上など、魅力ある府立高校づくりを進めます。

21 府立高校の魅力向上のため、地域の実情等を踏まえた学校・学科再編の検討や、社会情勢等の変化に対応した入学者選抜制度の見直し、全国募集の拡大などを検討し、教育制度等の改革を進めます。

22 私立幼稚園における子育て支援利用料の減免や園児の環境改善を進めるとともに、私立の小・中学校、高等学校まで、施設耐震化補助やあんしん修学支援制度等により、教育条件の維持・向上や保護者の経済的負担を軽減します。

23 府立学校施設の長寿命化対策などのリニューアルを促進するとともに、感染症や猛暑に対応するための空調設備を更新するなど、地域コミュニティ形成や防災拠点としての役割を踏まえ、安心・安全で多様な人々の利用に配慮した環境整備を進めます。

24 小・中学校、高等学校における通級による指導を充実するため、特別支援教育の専門的な知識を持つ教員を育成し、障害の特性を踏まえた学習上の配慮を行う多様な学びの場を整備します。

25 障害のある児童生徒だけではなく、特別な支援を必要とする児童生徒に対して、より理解しやすい授業の工夫など、授業のユニバーサルデザインを進めるとともに、障害のある児童生徒が学校で必要な医療的ケアを受けられるよう、看護師等の専門的な職員の配置を進めます。

26 特別支援学校において、自立と社会参加へつなぐため、就職を希望する生徒の増加と希望進路の実現をめざし、キャリア教育の充実と関係機関と連携した就労支援を進めます。

27 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育の構築を進めるとともに、障害のある人もない人も共に楽しめるアダプテッドスポーツ等を通じ、高校生と特別支援学校の生徒との交流活動を実施するなど、「心のバリアフリー」授業を展開します。

**いじめや不登校への早期対応、家庭や地域との連携協働を進めるなど、安心・安全で充実した教育の環境を整備します。**

28 不登校児童生徒の学校復帰や社会的自立を支援する拠点である市町村の教育支援センターに、スクールカウンセラー等の専門家を配置するなど、機能を強化します。

29 家庭教育に関する専門家を市町村に配置し、「子育て世代包括支援センター」等との連携を進め、家庭教育に悩みや不安を抱える家庭を訪問するなど、幼児期から就学後まで、地域の力を活用した切れ目ない支援を行います。

30 幼児教育アドバイザー派遣制度の拡充を行う等、幼児教育センター機能を一層充実させ、幼児教育の質の向上を図るとともに、幼児教育施設から小学校への円滑な接続を進めます。

31 全ての教職員がいじめ、ヤングケアラーなどの問題や、小学校から中学校への進学などの環境変化に対して、その態様に応じた適切な対処ができるよう、研修を充実させます。

32 SNSを活用した相談事業を実施するとともに、24時間対応の電話相談や「ネットいじめ通報サイト」など、民間企業と連携したいじめ対策事業等を実施します。

33 不登校児童生徒が増加傾向にあることを踏まえ、個々の状況に応じた支援計画の策定や、ICTを活用した個別学習や遠隔学習、きめ細かな支援を充実させます。

34 新型コロナウイルス感染症対策の経験を踏まえ、「大学・学生のまち」京都として、学生が安心して学び続けることのできる環境を整えるための大学の取組に対して支援します。

35 新型コロナウイルス感染症対策の経験を踏まえ、ICTを活用した学びの保障や専門家と連携した児童生徒の心のケアなど、災害時や新興感染症等の非常時においても、子どもが安心して学べる環境の保障に取り組みます。

- 36 教員志望の大学生等の「学生ボランティア」や、地域住民の協力により学習支援を行う「地域未来塾」の取組を府内各地で実施し、全ての子どもが将来に夢や希望を持って成長していけるよう支援します。
- 37 高校生の「あんしん修学支援制度」や通学費補助制度など、高校生等に対する就・修学支援制度により、安心して勉学に励むことができる環境を充実させるとともに、府立高校における「1人1台学習用端末」の導入に係る購入費の補助等、保護者の負担を軽減するための支援を行います。
- 38 子どもたちが地域行事の伝承や体験活動・学習活動等に関わることにより、ふるさとに誇りと愛情を持つ次代の地域づくりの担い手を育成します。
- 39 学習補助や登下校安全指導、地域の祭りや農林水産業の体験などの郷土学習、異学年交流など、地域住民の協力を得て子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「地域交響プロジェクト（協働教育分野）」によるNPOとの連携など、地域の方々や団体、大学、企業等との連携・協働体制の構築を積極的に進めます。
- 40 学校の運営に地域住民の意見を反映させる「コミュニティ・スクール」の導入を全ての校種で促進し、「地域とともにある学校づくり」を進めます。

**教職員の働き方改革を進めるとともに、教員の資質能力を向上させます。**

- 41 令和4（2022）年4月に設置した京都府デジタル学習支援センターにおいて、日々の授業で主体的・対話的で深い学びを効果的に実施するためのコンテンツの発信やリーダー教員の育成等により、京都式「教育DX」を進めます。
- 42 教職員の働き方に関する意識改革を進めるほか、教員業務支援員（いわゆる「スクール・サポート・スタッフ」）等外部人材の活用、部活動の地域移行など、学校や教員が担う役割の見直し・業務の明確化などにより、教員が授業や授業準備などに集中できる環境を構築するとともに、教員をめざす学生に対する支援の強化等により教員志願者を確保し、教育の質を高めます。
- 43 Webによる研修動画を活用した講座や、勤務校での受講や育児休業中の教員等が自宅で受講できる動画配信システムを充実させるとともに、経験や職種に応じた教員研修を系統的かつ体系的に実施します。
- 44 民間企業研修・大学での長期研修やグローバルな視点を持つスペシャリストを育成するための海外派遣研修を実施するとともに、自己啓発のための休暇取得を促進するなど、教員の資質能力を向上させます。
- 45 多様な課題を抱える児童生徒にきめ細かな指導ができるよう、スクールカウンセラーやソーシャルワークの視点で支援を行うまなび・生活アドバイザーなど、教員以外の専門スタッフの配置拡充を進めます。
- 46 ICTの活用や小学校における教科担任制の導入など、様々な教育改革や複雑化・多様化する教育課題に対応するため、教育環境を整備するとともに、効果的・効率的な教員の資質能力向上に取り組めます。
- 47 私立学校と公立学校、南部地域校と北部地域校の教員の研修などを通じた交流により、広い視野を持つ教員を育成します。